



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：米国高校生第1陣（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国から高校生及び引率者 96 名が 2018 年 7 月 24 日～7 月 31 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：96 名

（内訳）

グループ A（25 名）：Edmonds School District（ワシントン州）

グループ B（25 名）：Northside College Preparatory High School（イリノイ州）

グループ C（25 名）：Ridgewood High School（ニュージャージー州）

グループ D（21 名）：Chicago Futabakai Japanese Saturday School（イリノイ州）

【訪問地】

東京都（全員）、北海道（グループ A/B）、栃木県（グループ C/D）

2. 日程

	グループ A	グループ B	グループ C/D
7/24（火）	【来日】		
7/25（水）	【オリエンテーション】 【講義】 外務省北米局 【視察】 江戸東京博物館・浅草		
7/26（木）	東京都から北海道へ移動		東京都から栃木県へ移動
	【文化体験】 峯光寺、座禅と習字体験	【視察】 北海道開拓の村	【学校交流】 栃木県立佐野高等学校
7/27（金）	【視察】 北海道開拓の村 【学校交流】 北星学園大学附属高等学校	【文化体験】 峯光寺、座禅と習字体験 【学校交流】 東海大学附属札幌高等学校	【表敬訪問】 栃木県庁 【視察】 大谷資料館
	【ホームステイ対面式】		【ホームステイ対面式】
7/28（土）	【ホームステイ】 札幌市		【ホームステイ】 大田原市

7/29 (日)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ】	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ】
7/30 (月)	北海道から東京都へ移動 【報告会】	栃木県から東京都へ移動
7/31 (火)	【視察】明治神宮・原宿（グループ A/C） 【離日】	

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都）



7/25 【講義】外務省北米局



7/30 【報告会】

グループ A/B（北海道）



7/26 【文化体験】峯光寺（グループ A）



7/27【学校交流】北星学園大学附属高等学校（グループ A）



7/27【学校交流】東海大学附属札幌高等学校（グループ B）



7/29 【ホームステイ歓送会】

グループ C/D (栃木県)



7/26【学校交流】栃木県立佐野高等学校



7/27【表敬訪問】栃木県庁



7/27【表敬訪問】栃木県庁



7/29【ホームステイ歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

グループ A（訪問地：北海道）

◆ 私が一番強い印象を受けたのは、ホームステイと学校訪問です。私たちとホストファミリー、日本人の高校生の間には、言葉の壁がありましたが、終わりに近づくころには、お互いに冗談を言い合うことができました。それは、言葉を超えた交流でした。

◆ ホームステイは私にとって一番の思い出です。ホームステイでは、日本の歴史、文化、言葉のすべての要素が含まれていて、とてもユニークな学びの機会になりました。私の第二の家族はこれからもいつも私の心の中にあります。これからずっと連絡を取り合いたいと思います。

グループ B（訪問地：北海道）

◆ 基調講演では日本の歴史について学ぶことができました。歴史と現在の状況を知ることができるバランスのよい内容で、どのようにして日本が現在の状況になっているかを理解することができました。学校訪問では日本の高校生と交流し、空手やダンス、茶道などを見学し、体験することができました。一番楽しかったのはホームステイです。ホストファミリーは英語が堪能だったので、日本語で話す必要は全くなかったのですが、日本語で話そうと頑張ってみました。レストランで食べたうどんやお寿司、また、家で食べたたこ焼きは本当に美味しかったです。素晴らしいホストファミリーだったので、またホームステイしたいと思います。

◆ 授業で日本語を学んでいた時は、その学びの意味やどれほど役に立つかということ
を理解することはできませんでした。来日して実際に日本人と話してみて、自分が日本
語をしっかりと理解できていることに驚きました。異なる生活習慣の日本人と交流する
ことは素晴らしい経験でした。また、歴史における日米の関係についての講演はとても
興味深かったです。今回の経験は素晴らしく、目を世界に開かせてくれた気がします。

グループC（訪問地：栃木県）

◆ 学校交流では日本人の好意的なところ、丁寧さ、寛大さが印象に残りました。言葉
の壁があったにも関わらず、文化、言語、社会的にも多くの違いのあるアメリカ人と日
本人の類似点を発見するなど、とても有意義な話をすることができました。ホームステ
イでは、家族の献身的なおもてなしにとっても感動しました。ホストファミリーは、言葉
の壁があるにも関わらず、機会がある毎に日本の文化について説明をしてくれました。
家族の歴史についても話をしてくれ、お土産や食事等で多いに甘えさせてもらいました。

◆ それぞれのプログラムは日本の生活の異なる面を見せてくれました。学校交流では
日本とアメリカの教育の違いや、世界の異なる場所で違う育ち方をしている人々は実
は同じなのだということを教えてくれました。これはホームステイ中にまだ家族が寝静
まっている中、日の出で目が覚めた時に感じたことです。考え事をしていたら、窓の外
の木々が目に入りました。木を見ているうちにこの木はアメリカの木なのか日本の木な
のか違いがわからないと思ったのです。ホームステイでも学校交流でも両国は実とは
とても似ているのだと感じました。講義や県庁では日本独特の文化を学びました。それ以外
の活動でも地球の反対側に位置する2つの場所がとても似ていることを学びました。

グループD（訪問地：栃木県）

◆ 学校交流で最も記憶に残ったことは、このように短い時間で親しい関係を築けたこ
とです。最初の対面の時は、とてもためらって、恥ずかしくて話をすることができず、
教室を歩き回っていました。見たところ、日本の学生も同じように感じていたようです。
でも、先生がお互いを紹介した後は、流れるように会話が始まり、交流が終わる時には、
新しい友人全員とメールアドレスを交換しました。私たちは、今でも連絡を取り合っ
ています。ホームステイで一番記憶に残っていることは、こんなに短い期間で、家族と強
い絆で結ばれたことです。信じられないような体験でした。ホストファミリーが、私に
とって第2の家族であるように感じました。そして、私をいつでも歓迎してくれると感
じました。

◆ 栃木県についての講義と学校交流は、とても貴重で、記憶に残るものでした。とて
も短い時間の中で友だちを作ることのできた佐野高校での交流は、とても楽しい経験で、
一生忘れることはありません。日本の政府機関を訪問できたことも楽しい思い出です。
誰でもができる経験ではないので、とても興味深かったです。日本（と栃木県）の歴史、
高齢化の問題、そして現在の経済について多くのことを学びました。さらに、ホストフ
ァミリーと過ごした時間が大好きでした。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー（グループA/B）

話しても通じない言葉が、書くことで通じ、どんどん会話が楽しくなりました。全く英語が話せない我が家の4年生の子供が、とにかく楽しそうに一緒にトランプをして遊んでいました。とても楽しい2日間になりました。

◆ 学校交流参加学生（グループB）

今回の交流を通し、英語で会話することの難しさを学び、まだまだ勉強が足りないと感じました。宗教や政治のことについて話してみたかったのですが、どう話せばよいかわからず、好きな食べ物や札幌の感想など、簡単な質問しかできなかったのが少し残念でした。これから毎日少しずつ英語を覚えていこうと思いました。

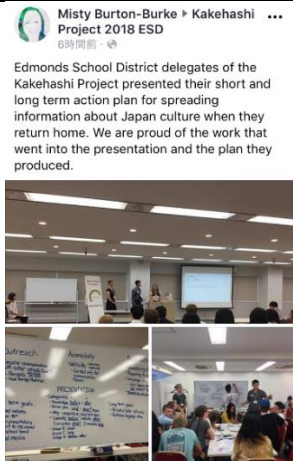
◆ ホストファミリー（グループC/D）

日本とアメリカの文化の違いなどがありますが、ともに共有でき、自分の家族のようになれたことが嬉しかったです。また会うことを約束しました。

◆ 学校交流参加学生（グループC/D）

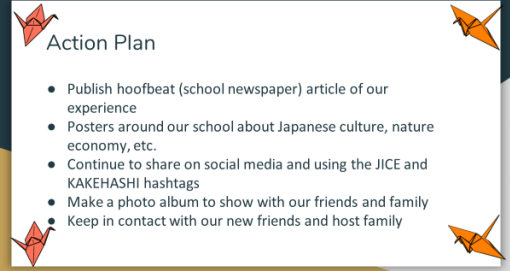
ディベートを行いました。日本語を話せる学生が多く楽しかったです。交流会では、日本語が話せない学生とも話すことができとても盛り上がりました。普段海外の人と話す機会がないので、とても貴重な経験になりました。

6. 参加者の対外発信

	
（グループA）報告会についての発信（Facebook） 報告会でエドモンスクールディストリクトからカケハシ・プロジェクトに参加した学生は、帰国後どのようにして彼らが体験した日本文化を発信するかについての短期、長期両方のアクション・プランを発表しました。その計画、及び発表は素晴らしく、誇らしく感じました。	（グループB）北海道神宮についての発信（Instagram） 神社にお参りする前に自分を清めるという初めての体験をしました。ホストファミリーと一緒におみくじを引き、楽しく過ごしました。本当に楽しい！

	
(グループC) 学校交流についての発信 (Instagram) A チームの勝利のために！PDA 形式のディベートで皆協力して与えられた課題と役割の中で主張を展開します。	(グループD) ホームステイについての発信 (Instagram) ホストファミリーのおかげで、私たちは幸運にも、栃木でたくさんある夏祭りの1つに行くことができました！揚げパンや冷やしうどんを売のを手伝いました。お母さんは、私たちが日本の夏祭りを満喫できるように、わざわざ浴衣を借りてくれました！私たちは、素晴らしいホストファミリーを必ず将来訪ねます！

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
アクション・プランの発表 (グループA) 短期プラン：WEB サイトで情報を発信し、グループや個人のホームページを開設し、個人の日本での体験を発信するとともに友人、家族、地域とリンクを共有する。 長期プラン：日本との文化交流を推進し、地元での日本に対する固定概念を変えていく。アメリカの高校生が日本の高校生とペンパルになることを推進し、リンウッド市が日本の姉妹都市となることを呼びかける。日本人のホームステイを受け入れたり、地域で日本文化、日本語を紹介したりするクラスを作る活動をしていく。	アクション・プランの発表 (グループB) ①「hoofbeat」という校内新聞のウェブサイトにて今回の経験の記事を載せる。 ②日本の文化、自然、経済などのポスターを学校周辺に貼る。 ③JICE や KAKEHASHI のハッシュタグをつけて SNS にて情報や経験を発信する。 ④フォトアルバムを作成し家族や友人に今回の経験を紹介する。 ⑤日本での新しい友人やホストファミリーと連絡を取り続ける。

Asian Fest and Japanese Art Gallery - Share experiences with students of Ridgewood High School the Asian Festival Japanese Culture Club - Start a club and meet to talk about Japanese culture  8	Action Plan: The Chicago Shimpō - We already made an appointment with the famous Japanese Newspaper Company - Urayama Yoshiko (president) - Creates an Opportunity to deliver our message - Access to a older age group that is different than the teenagers - Bilingual article (Access to both Americans and Japanese) - Started in 1945 and has a past filled with history
アクション・プランの発表（グループ C） ①今回の経験をリッジウッド高校アジアフェスティバルで紹介して共有する。 ②日本文化クラブを発足し，日本文化について話し合う。 ③リッジウッド高校新聞とリッジウッドニュースに日本についての知識を共有し，日本に興味を持ってもらう。 ④カケハシ・プロジェクトのビデオを公開し，リッジウッド高校モーニングレポートで放映する。	アクション・プランの発表（グループ D） ①シカゴ日本商工会議所 (JCCC) は，多数の会社や組織と繋がりを持つ地域団体であるため，JCCC と協力し，二方向の宣伝方法を作りたいと考える。1) 生徒が技術を通して青年に向けて宣伝をする。2) JCCC がその繋がりを通して年配の人たちや組織に向けて宣伝をする。 ②シカゴ新報は，日本語と英語の記事を掲載する二か国語の新聞である。1945 年に創設された歴史あるこの新聞社とすでにインタビュー記事掲載について約束を取っている。このインタビューは，メッセージを発信する良い機会になると共に，十代の私たちとは異なる年齢層の高い人たちにアクセスする機会ともなる。二か国語の記事を通して，アメリカ人と日本人の両方にアクセスできる。